臨床報告

帯状疱疹後神経痛に附子を共有する
3種の製剤が奏効した1例

東 一紀

A Case of Postherpetic Neuralgia
Successfully Controlled with 3 Kampo Medicines which Bushi Commonly

Kazunori HIGASHI

M. D., Department of Dermatology, Kitasato University School of Medicine, 1-15-1, Kitasato, Sagami-hara-shi, Kanagawa 228, Japan

Abstract A 77-year-old woman who had suffered from herpes zoster five months previously in her right T5,6 region consulted the author with complaints of insomnia and appetite loss due to postherpetic neuralgia. Administration of the Kampo extract Mao-bushi-saishin-to (NC127) brought about marked improvement in the pain, and the patient was able to sleep from that night onward. Later, Keishi-ka-jutsubu-to (TJ18) was given, reducing the pain still further. When Kakou-Bushi-Matsu (SO1) was added, the pain disappeared almost entirely.

This clinical course suggests that it was the Bushi (Aconiti Tuber), which was the only crude drug common to all three Kampo products, that was largely responsible for the analgesic effect.

Key words: Kakou-Bushi Matsu, postherpetic neuralgia, Mao-bushi-saishin-to, Keishi-ka-jutsubu-to

Nihon Toyo Igaku Zasshi (Japanese Journal of Oriental Medicine), 47, 267-270, 1996
(accepted 19 Mar, 1996)

はじめに

帯状疱疹後神経痛とは、帯状疱疹の神経痛が発症後1カ月以上(異説あり)つづく場合である。本症は病変部を冷やすと悪化し、温めると改善する傾向があるため、陰証の病態であると考えられる。したがって本症の漢方治療には、附子を含む薬剤が頻用される¹⁾²⁾。今回、附子を共有する3種類の漢方製剤がそれぞれ奏効した症例を経験したので報告する。

症 例

患者: 77歳, 女子。

初診: [REDACTED]

主訴: 右胸背部の疼痛による不眠, 食欲不振。

既往歴・家族歴: 特になし。

現病歴: 平成5年11月初め(約5カ月前)より, 右胸背部に疼痛と小水疱が出現したため, 同9日, 当科を受診した。帯状疱疹と診断され, ロキソプロフェンを投与されたが, 内服後嘔吐した

図1 治療および経過

ため中止した。以後、非ステロイド系消炎内服剤は用いていない。内服・外用治療にて皮疹は約3週後に略治したが、疼痛による不眠、食欲不振が続くため、XXXXXXXXXX、漢方治療のために筆者外来に紹介された。疼痛は持続性のズキズキする痛みであり、寒冷または湿気によって増悪し、入浴によって改善した。

現症：150cm，45kg。血圧132/60mmHg。身体所見上とくに異常がない。右背部から側胸部にかけて斑状の白色癬痕が散在する。

皮膚科学的診断：带状疱疹後神経痛（右T_{5,6}部）。

漢方的所見・診断：便通1日1回。足の冷えがあるが、凍瘡を起さない。下腿浮腫はない。のぼせはない。地図状舌。腹力は虚で、小腹拘急がある。したがって体質はやや陰虚証³⁾である。また病変部については、疼痛が寒冷により悪化するため陰証である。以上より、陰証の疼痛に用いる熱剤⁴⁾の附子を含む麻黄附子細辛湯、桂枝加朮附湯などの適応であると考えた。

治療および経過（図1）：初診時、メコバラミン、セファランチンを中止し、ヘパリン軟膏、ヒドロキシジンPは継続し、コタロー麻黄附子細辛湯エキス3カプセル（常用量6カプセル）を追加した。その晩より疼痛は著明に改善し、不眠と食欲不振は消失した。2週後には疼痛はほとんど消退した。その後は「さわるとよくない。雨が降る日、寒い日には少しシクシクする」という程度であったが、6月末に特に誘因なく疼痛が初診時の3分の1程度再燃したため、7月半ばよりツムラ桂枝加朮附湯エキス7.5gを追加した。2週後には再び改善した。そして、10月にサンワ加工ブシ末1.5gを追加して2週後には疼痛は完全に消失した。その後、翌平成7年2月の最も寒い頃に一時的に少しシクシクした。5月に咽頭炎で内服を1週間中止した時、疼痛が再燃し不眠を起したが、内服を再開後1週で疼痛は再び消失した。以後、内服を継続している。

考 察

上記の臨床経過より、本例の神経痛に対して麻黄附子細辛湯と加工ブシ末は有効であり、桂枝加朮附湯はやや有効であったと判定した。これらの3薬剤は附子を共有する。そして最後に用いた加工ブシ末により疼痛がほとんど消退したため、これらの薬剤に含まれる生薬のうちで鎮痛効果が最も大きかったのは、おそらく附子であったろうと推測された。

本例に用いた附子の最大1日量は、麻黄附子細辛湯の0.5g、桂枝加朮附湯の0.5g、そして加工ブシ末1.5gの計2.5gであった。もちろん製剤による力価の違いがあるため一概には述べられないが、加工ブシ末の常用量である1日1.5gの約2倍量で疼痛をほぼ除去しえたものと思われる。しかし筆者は加工ブシ末の倍量投与で軽度の附子中毒を起こした例を2例経験した⁹⁾ため、附子を含む製剤を併用する場合には注意を要すると考えられる。

本例の証については、本例は体質はやや陰虚証であり、病変部は陰証であったため、熱剤⁴⁾の附子、乾姜、呉茱萸、細辛、桂枝、当帰などを含む麻黄附子細辛湯、桂枝加朮附湯、真武湯、人參湯、当帰四逆加呉茱萸生姜湯、当帰湯、五積散、八味地黄丸などの適応であると考えられる。これらの薬剤のうち麻黄附子細辛湯、桂枝加朮附湯、加工ブシ末の3薬剤を用いた理由については、麻黄附子細辛湯、桂枝加朮附湯は一般にはやや陰虚証体質の、三叉神経領域の带状疱疹後神経痛に用いられる¹⁾が、筆者の経験上、他の領域の本症にも有用な場合があるために用いた。また加工ブシ末は鎮痛のために他の薬剤に追加する薬剤である¹⁾。なお筆者の带状疱疹後神経痛の治療経験では(本例を除く)、有効4処方のうち2処方、またやや有効4処方のうち2処方は上記3薬剤の単独使用または併用であり、いずれも投与後2週間以内に効果が現れた。

他の薬剤は下記の理由により鑑別した。真武湯、人參湯は中等度以上の陰虚証で、他の薬剤で胃腸障害を起す例に用いられる。当帰四逆加呉茱萸生姜湯は凍瘡を合併する例に用いられる。当帰湯は通常、胃潰瘍や狭心症の肩・背部に突き抜ける痛み²⁾に用いられる。五積散は上熱下冷に用いられる。八味地黄丸は下半身の神経痛に用いられる。

一般的にいて、麻黄を含む処方³⁾は循環器疾患、高齢者では注意を要する⁹⁾。本例は高齢者ではあるが、既往歴・家族歴に循環器疾患がなく、血圧は正常で、また身体所見上とくに異常がなかったため、麻黄附子細辛湯を用いた。しかし年齢を考慮して常用量の半量を用い、また疼痛の再燃時には増量せずに桂枝加朮附湯を追加した。

筆者は現在、带状疱疹後神経痛の漢方治療には、麻黄の使用が可能な例には麻黄附子細辛湯を用い、そうでない例には桂枝加朮附湯を用い、また必要なら加工ブシ末を追加して、これら3薬剤の有用性と適応を検討している。結果は後日報告予定である。

本論文の要旨は日本皮膚科学会第708回東京地方会において発表した。

文 献

- 1) 松田邦夫：症例による漢方治療の実際，p.329，創元社，大阪，1992
- 2) 白藤達雄：神経痛の漢方治療（带状疱疹も含めて），現代東洋医学，14，197-201，1993
- 3) 日本漢方医学研究所：新版漢方医学，pp.23～27，日本漢方医学研究所，東京，1990
- 4) 日本漢方医学研究所：新版漢方医学，p.57，日本漢方医学研究所，東京，1990
- 5) 東 一紀，他：带状疱疹後神経痛のサンワ加工ブシ末内服療法，漢方の臨床，38，1314-1319，1991
- 6) 日本漢方医学研究所：新版漢方医学，p.68，日本漢方医学研究所，東京，1990

要旨 約5カ月前に带状疱疹が発症した77歳女子の、右胸背部の疱疹後神経痛に対して、コタロー麻黄附子細辛湯エキスを投与して疼痛は著明に改善した。その後、ツムラ桂枝加朮附湯

エキスを追加してやや改善し、さらにサンワ加工ブシ末を追加して疼痛はほとんど消退した。以上の臨床経過より、上記の3薬剤に含まれる生薬のうちで最も鎮痛効果が大きかったのは3薬剤に共有される附子であろうと推測された。

キーワード：加工ブシ末，帯状疱疹後神経痛，麻黄附子細辛湯，桂枝加朮附湯